

## 私の流星

宇宙のどこかで星が砕ける  
地球のどこかで魂が昇る  
私が死ぬとき宇宙のどこかで星が死ぬ  
星と星が衝突して流れるとき私も燃える  
木っ端微塵になっていく運命  
星はこの瞬間も宇宙を旅している  
小惑星をかすめてガス雲を蹴散らして  
私も向かい風に吹かれてその場所へ  
星も孤独な生涯  
凸凹で傷だらけ  
無限に膨張する世界と不安でしかない未来  
最後の瞬間は共に訪れる  
星は強烈な閃光を放って粉々になり  
私のすべては銀色の灰へ  
どんな時も感じている  
奇跡のように産まれて  
産まれる前の世界へ帰る  
永遠はなかった  
靴紐すら結べなかったころがあった  
いびつな岩の欠片だったころがあった  
黒い海で漂流して誰かが誰かと喧嘩をしていて  
遠くで小惑星が引力に引かれていて  
私は誰かに恋をして星は宇宙の花火大会をみていた  
いろんな星座の囁きをきいて  
いろんな歌姫のラブソングに耳を傾けて  
呼ぶ声は青い空を貫く  
運命を受けいれる日  
旅の終着地点で待っている衝突

XX+XY

二十世紀に産まれた子が奏でる来世紀への詩  
TVをつければ平和のための戦争

広島のパネル記念公園で今も燃えつづける平和の灯  
その火が燃えている限り戦争は終わっていない

戦後六十年の京都は心の難民で溢れている

奇麗事をいっても金で生活ができての奇麗事

資本主義そのままに教育も勝ち組へのレール工事

経済不況で治安を維持できない行政

切り裂かれた未来が別の未来を殺す

効率と能率と利便性と要領を優先しようと人を商品化

戦争をしなくても培養される絶望

二十世紀末に産まれた子が叫ぶ来世紀への謝罪

多くの人が自分のことで精一杯

多くの人が欲望を満たすことに金を使う

ほとんどの現代人がこの世紀で死ぬ

死んだあとの世界のことなど気にせず

曖昧に誰かの責任にして

借金と問題をタイムカプセルにつめ放題

魂が最初に辿り着く場所といわれる月

月のクレーターから来世の京都へ捧げるレクイエム

あなたが踏むその大地に葬られた骨

あなたが見上げる三日月

あなたの肉体に宿るXYかXX染色体

悠久の都の空気を吸い過酷な人生を歩もうとも

平和なんて御伽話

平安時代も戦国時代も幕末も昭和も平成も

人は苦しみ泣いて京都は乱れた

その赤い血に継承されたXとXの螺旋